

学びの広場

立花学園高等学校のボランティア活動

今日は、町の中で時々見かける、立花学園高等学校生徒のボランティア活動について、担当の先生にお伺いしました。

校訓「誠実」「実践」「奉仕」

立花学園高等学校は、昭和3年に松田和洋裁女学校として創立以来、時代の変遷に合わせ数回の校名変更の後、平成4年から現在の立花学園高等学校として、創立84年目を迎えました。

校訓は「誠実」「実践」「奉仕」とし、勉強と運動、奉仕活動に積極的に取り組む生徒の育成を目指しています。現在、生徒数は1300余名を有し、多方面で活躍していますが、特に一昨年より野球部の活躍が著しく、甲子園出場も夢ではありません。



立花学園高等学校校舎全景
町中で一番高い建物

最初の取り組みは 総合的な学習の時間

ボランティア活動への最初の取り組みは、平成15年に導入された「総合的な学習の時間」の一環として実施されました。具体的なボランティア活動として実施したのは、立花学園高等学校の

前を流れる川音川の河川清掃でした。各学期に1回、学年ごとに文久橋付近から酒匂川との合流地点付近までのごみ拾いを行っています。一学年400名以上の生徒たちが、一生懸命にごみを拾うのですから、またたく間にきれいになっていきます。始めて1時間を過ぎた頃には、渡したビニール袋が一杯になりました。



学年ごとの生徒による河川清掃
またたく間にきれいになります

生徒たちは嫌々やっているふうではなく、皆笑顔で楽しそうに参加しています。最近ではごみが減少しているため、かえって物足りなさそうにしているくらいです。

「総合」から運動部へ 現在は委員会活動

「総合的な学習の時間」で導入されたボランティア活動の芽は、生徒の心に定着しました。朝練をしているサッカー部や野球部が通学路のごみ拾いを始めたのです。バドミント

ン部では、今でも不定期に実施していますが、そのような活動の多くは今は美化委員会に引き継がれました。週の月・水・金の3日間、美化委員が通学路清掃を実施しています。



美化委員会の通学路清掃
町の人たちも感謝しています

中心は何といっても インターアクトクラブ

立花学園高等学校には、インターアクトクラブというボランティア活動をする部活動があります。長年、地域のボランティア活動に積極的に参加してきました。本校におけるボランティア活動の中心といってもよいでしょう。

主に町社会福祉協議会主催の活動に参加しています。赤い羽根募金の活動を校内はもとより、新松田駅前で実施するのは例年のことです。また、「ふくしあつたかフェスタ」への出店や売り上げの寄付など、その活動は多岐にわたっています。



新松田駅前募金活動
「ご協力、お願いします」

松田観光まつりへ チアリーディング部と 吹奏楽部、柔道部が参加

ボランティア活動とは言えないかもしれませんが、地域の活動にも積極的に参加させていたっています。松田観光まつりには、柔道部の生徒が毎年参加しています。大行列列で、駕籠かきや腰元の装いで出させてもらっています。



力持ちの柔道部
駕籠かきで活躍しています



まつりの先頭を
元気一杯行進しています

近年は柔道部だけではなく、チアリーディング部や吹奏楽部も参加させていたようになりました。チアリーディング部は、大行列の先頭でパフォーマンスを繰り広げ、それに続く吹奏楽部が演奏するという形が定着しつつあります。

演劇部は小学校へ 釣り部も酒匂川の清掃

部活動のボランティアでいえば、今年で3年目を迎える演劇部の防犯劇も忘れるわけにはいきません。松田警察署からの依頼で、松田署管内

の小学校に伺い、防犯劇を上演しています。毎年6校ほどの小学校をまわっています。

酒匂川や川音川などの河川に恵まれた松田町で、一番恩恵を受けているのは本校の釣り部でしょう。豊かな地域の自然があるおかげで、釣り部の生徒は釣りの技術を磨くことができるのです。そのため、釣り部の生徒の河川に対する思いは強く、それが部活動中の清掃活動につながりました。釣りをしている部員のすぐそばで、半数の部員はせっせとごみ拾いにいそいそしています。



釣り部の河川清掃

ボランティア活動を実施して

立花学園高等学校
教諭 中川 清人

堅牢地神

堅牢地神は「けんろうちじん」または「けんろうじしん」と読みます。地神というのは、屋敷地内の守護と農作祈願のための神でしたが、仏教上の十二天(十二方位を守護する)の一つである堅牢地神と習合(同化)しました。

松田の文化財探訪

「歴史的石造物その6」
町文化財保護委員 平賀康雄



堅牢地神の石造物
延命寺の堅牢地神
形立像等があります。圧倒的に多いのは、江戸後期に造られた「堅牢地神(塔)」という文字塔で

旧来、日本各地の民衆生活を支える精神的な一要素として、地域の土俗信仰的な集団の行事である講(講ごと)というものがありました。庚申講、山の講、稲荷講、念仏講、観音講等々、その中でも地神講はごく最近まで永らえてきたものの代表といえます。例年、春・秋の彼岸の中(春分・秋分の日)に最も近い戌の日を社日と称し、この日に地神講は行わ

す。松田地区に10数基、寄地区に5基あります(すべて文字塔)。なお、秦野から足柄上郡東部にかけての路傍で多く見られる后土神、土后神(この二神は特に土用と火防を守護する)、天社神、三柱神などは同類の土地神です。

「総合的な学習の時間」の導入から始まったボランティア活動は、本校の校訓とも合致し、少しずつその根を広げていきました。お世話になっている地域に貢献したいという思いもありました。しかし、そのような活動によって得られた一番の成果は、生徒自身の精神的な成長です。地域のために貢献したいという生徒の気持ちは、生徒自身のためになったのです。そういう意味でも、やはり松田町には深く感謝しなければならぬと思っています。